

## 第15回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和3年12月17日(金)  
開会13時45分 閉会15時06分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- |              |            |
|--------------|------------|
| 教育長          | 鍵本 芳明      |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子      |
| 委員(教育長職務代理者) | 服部 俊也      |
| 委員           | 松田 欣也      |
| 委員           | 梶谷 俊介      |
| 委員           | 田野 美佐      |
| 教育次長         | 池永 亘       |
| 教育次長         | 梅崎 聖       |
| 学校教育推進監      | 平田 善久      |
| 教育政策課        | 課長 大西 治郎   |
|              | 副課長 江草 大作  |
|              | 総括主幹 土井 隆史 |
| 財務課          | 課長 遠藤 圭一   |
| 高校教育課        | 課長 中村 正芳   |
| 高校魅力化推進室     | 室長 室 貴由輝   |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 報告事項
- (1) 令和3年度11月補正予算額(経済対策分)について
  - (2) 第26期岡山県産業教育審議会建議について
  - (3) 進学希望状況第一次調査結果について

## 6 議事の概要

### 開会

#### 非公開案件の採決

##### (教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。  
委員から、議題を非公開とする発議はないか。

##### (委員全員)

(特になし)

##### (教育長)

特にないようなので、直ちに審議に入る。

#### 報告事項(1) 令和3年度11月補正予算額(経済対策分)について

##### ・財務課長から資料により一括説明

##### (委員)

補正予算全体についてコロナ対策費用は年間いくらかかっているのか。

##### (財務課長)

年度ごとの金額は持ち合わせていない。令和元年度からこの11月補正(経済対策)までで約28億円の予算措置をしている。事業ごとに対象の校種が異なるため、学校単位の算出について明確な数字を出すことは難しい。

##### (委員)

コロナ対策費用は今後も同程度続くと考えているのか。

##### (財務課長)

オミクロン株の懸念等先が見通せないこともあり、想定は難しいが、すぐに対策を講じることができるように準備を進めてまいりたい。

##### (委員)

コロナ対策費用に予算が回ることで削られた費用はあるのか。

##### (財務課長)

海外留学支援事業などコロナ禍のため行うことができない事業等はあるが、必要なものについてはきちんと予算措置している。

##### (委員全員)

了 承

## 報告事項（２）第 26 期岡山県産業教育審議会建議について

### ・高校教育課長から資料により一括説明

#### （委員）

いただいた建議に対して県教委としてどう臨んでいくのか。また、今後どんなスケジュール感で検討するのか。

#### （高校教育課長）

建議は、来年度から本格実施となる新学習指導要領に求められる部分とかなりの部分で共通するなど、非常に示唆に富む内容となっている。本建議の内容を踏まえ、次年度以降の施策立案等に生かしたい。また、地域との連携や大学との協定などは進んでいるが、産業界との連携は各教育協会又は学校単位での活動にとどまっており、産業教育審議会から連携していくための基盤づくりが急がれるとの指摘を受けている。産業界との連携をしっかりと進めるなど、こうした課題に対応してまいりたい。

#### （委員）

例えばスマート農業やスマート工業の分野において、産業界と連携していくために学校現場はどう変化しなければならないのか検討する必要がある。幅広い分野になると方向性の話ばかりとなり、漠然とした議論にしかない。そうならないためにも専門家から意見を聞く場を作ってほしい。

#### （高校教育課長）

これまでは県内の三つの地区で企業と学校現場、県教委が懇談会を行い、情報交換をしていたが、産業教育振興会長から、御指摘いただいた課題に関する協議を産業界の方と行う機会を御提案いただいております。今後、企業経営者の方と学校長等が話をする場を設けることを考えている。

#### （委員）

例えば農業であれば、生産性を高めるためにどうすべきかなど、学科の中で何を学ぶのか具体的な内容を詰める必要があり、学科の見直しやカリキュラムの編成に結び付けなければならないと思うが、どうか。

#### （高校教育課長）

学科の在り方についても意見があったが、学科そのものを変えるというより、今は学びの体系や内容の大きな転換が求められていると思う。産業教育審議会からも、最先端の設備を用いた学びの充実に加えて、人間性の部分をしっかりと磨いてほしいという意見があり、カリキュラム開発や現場での指導の充実につなげてまいりたい。

#### （委員）

生徒たちは、学科の専門性に即した職業にきちんと進学・就職しているのか。学んだことが生かされていないのであれば、今の教育に問題があるのではないかと

と捉えるべきだが、どうか。

**(高校教育課長)**

産業教育審議会においても同様の意見があった。農業は担い手不足の問題を抱えているが、農業科の生徒が農業の分野に進んでいるかと言われると、工業科や商業科と比較して少ない。一方で、農業が生業として成り立つのか、という大きな課題もあり、農業関係の学科を有する県立高校では、スマート農業が学べる施設・設備を全校で設置するなど、収益性の高いスマート農業を活路の一つとしている。これらの取組に加えて、スマート農業に先進的に取り組んでいる専門家の話を聞くことや、企業の方に学校へ入ってもらい、日常的に連携をしていくことなど、できることから進めてまいりたい。

**(委員)**

資料3ページの「基礎学力の定着を図る学びの推進」において「共通教科を中心とした基礎学力の定着や幅広い教養の習得」との記載があるが、専門教科と共通教科は、限られた時間の中で両立が可能なのか。約8割の生徒が就職せず、大学や専門学校に進学する状況の中で、進路に必要な科目に取り組むことは負担であると聞いており、検討する必要があるのではないか。

**(高校教育課長)**

従前は、専門領域をしっかりと学び、社会に出てもそれだけでやっていくことができたが、これからの時代は、AIによる置換えにより、決まった仕事が永続的にあるということはないため、専門性を生かしながら柔軟な発想をしたり、新たな物を生み出したりすることができるようにならなければならない。例えば、物を売るにしても、その物の背景や伝統を語れるなど幅広い知識が必要であり、そうでなければ、顧客に対するPRや、そこから新たな物を生み出すこともできないと聞く。産業教育審議会では、変化に対応するのではなく、自ら変化を起こす人間を育ててほしいという意見もいただいている。専門学科では、高校入学後すぐに共通教科の学習時間が減少するなど、基礎学力の定着や幅広い教養の習得が課題となっている。他県の専門高校では、学校が育成を目指す資質・能力に共通教科としてどうアプローチできるのか、専門教科とコラボレーションしてどう学びを深めることができるかなどについての取組も行われている。本県の教育もそうした視点を持って取り組んでほしいという意味合いが込められている。

**(委員)**

資料10ページに「教員免許状を所有していない専門職の企業人が、企業で働きながら、高校教育に携わることができる仕組みが必要である」と記載されているが、どんな仕組みを想定しているのか。

**(高校教育課長)**

特別免許状を交付して授業を行ってもらうような形ではなく、もう少し気軽に

学校へ入ってもらえるようなイメージを想定している。ある程度の期間学校へ入ってもらったり、本業の合間にスポット的に学校へ入ってもらったりするイメージである。

**(委員)**

先日、弊社の社員が倉敷商業高校でオンラインによる講義をさせてもらい、その際の生徒からのアンケートでは、「教科書で学んだことが社会でどう繋がるのか分かった」という答えがあった。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、今までは教員が教育の全てを行っていたが、これからは教員と企業が連携することで、実際に社会に関係する部分の情報提供を企業側が受け持つなど、教育の分担を行うべきである。企業側が受け持つことは、就職先としてその企業の情報提供等にも繋がるため、高校卒業後に就職することは非常に意味があり、人生の幅を広げることに繋がるなどしっかりとメッセージを発信していくことが重要である。仕事をしながら身に付くことと、進学して身に付くことは異なるが、これからの時代は学歴だけで能力を判断することは難しく、いかに実力を身に付けていくかが重要であり、高校や大学までで学んだ知識や経験だけでは不十分で、先ほど話に出た基礎学力や人間味的なものも必要である。つまり、高校や大学では自ら学ぶ力をどう身に付けるかが重要である。現代の情報化社会では、自ら進んで情報を取りに行くことが昔と比べて容易であり、学びの楽しさや、自分の働きで社会を変化させるという思いに繋げてほしい。今までは、そうした体験は商業・工業・農業等の学科のみで展開されており、普通科ではそうした体験や学びができていなかった。また、今までの教育の在り方は教員が中心であったが、現在では、教員が社会と一緒にあって教育を進めていく仕組みづくりが必要である。そのため的手段として、コミュニティ・スクールが有効であると考えます。コミュニティ・スクールにどんな方に入ってもらい、学校で何をしていくのか議論することが重要ではないか。

**(委員)**

自分の周りでも生徒と関わる機会が増えているが、企業と学校が一对一で繋がることはまだほとんどない。今回自分が声をかけてもらったのは、同友会や商工会等の団体と学校が繋がっていて、その仲介があったためだ。企業として学校と繋がることでありがたいのは、大学の学部長などにもこちらの話を聞いてもらえることであり、その際に外部評価がもらえるなど、企業側もよい刺激となっている。また、卒業生などのネットワークの活用も考えられる。

**(教育長)**

先日のニュースで、高校の家庭科での資産運用の普及について取り上げられていたが、リアルな話を教員がするのは難しいと思われる。例えば、証券会社の方に話をしていただくなど、スポット的に学校へ参加いただく仕組みができればと

考える。

(委員全員)

了 承

### 報告事項（３）進学希望状況第一次調査結果について

#### ・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

進路希望についてコロナ禍の影響はあるのか。

(高校魅力化推進室長)

広域通信制の学校については実際に県を跨ぐ移動を行わないためあまり影響はない。影響がありそうな県外の全日制高校への進学や岡山市・倉敷市などの都市部の全日制高校への進学については希望者が増加しており、コロナ禍の影響はないと考えている。

(委員)

県外から岡山県への進学希望者は増えているのか。

(高校魅力化推進室長)

データはないが、県外からの進学に関する問い合わせは昨年度と比較して増加しており、現段階では全国募集の受検者は増加すると推測している。

(委員)

看護科の希望は減っているのか。私立では専願で受けることで授業料の免除等の特典があると聞いており、私立に流れていないか。

(高校魅力化推進室長)

看護科では真庭高校と津山東高校で進学希望者が減少している。特徴的なのは津山東高校の減少であり、私立に流れたのではなく、新型コロナウイルス感染症の感染経路として、看護等の医療・福祉の場での感染例が多いことが影響していると考えている。

(教育長)

倉敷中央高校の看護科は前年度と比較して増加している。前年度の倍率を見て判断をしている場合もある。

(委員)

県外から進学する場合は自宅から通学するのか。それとも寮等に住むのか。

(高校魅力化推進室長)

笠岡、井原、和気閑谷、新見高校は隣県からも通学可能な圏内であり、地域によって異なる。

(教育長)

スポーツ進学の場合は寮等で下宿するケースが多い。全国募集をする場合、課題

となるのが住む場所の確保である。全国募集を行う学校では進学希望者が減少している場合が多く、全国募集の進学希望者のために、寄宿舍を整備したとしても、その後の活用で困る場合もあり、判断が難しいのが実情である。

(委員全員)

了 承

閉会